

本日の授業者

アクティブ・ラーニング
授業デザインシート

壬生川小学校

アクティブ・ラーニング型 授業デザイン

3年竹組	教科等	単元名	重さ	8/8	壬生川小学校 一色 司
------	-----	-----	----	-----	----------------

★ 単元のねらい
重さの普遍単位 g、kg について理解し、測定することができる。
☆ 本時のねらい
上皿天秤のつり合いと対応させて、加法や減法によっていろいろな重さを考えることができる。
○「学びあい学習」におけるICT活用のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用して課題解決意欲を高める。 タブレットPCと電子黒板を活用して意見を効率よく共有して思考を促す。
●「学びあい学習」のポイント
<ul style="list-style-type: none"> 全ての子どもが、自分の意見や疑問点をもってグループでの話し合いに参加する。 量り方を友達に説明したり人の考えを聞いたりすることで自分の考えを深められるようにする。
◇ カルテからの目標設定（関連する部分に下線）
②主体力「自分の意見を言うときは、なぜそう思うのか、理由もせつ明している」
⑩活用力「タブレットやコンピュータを使って、じょうほうを集めたり自分の考えを発表したりしている」
考えの根拠を基にして自分の意見を伝えられる子どもは少なく、発表、話し合い活動においても消極的な傾向がある。考えがまとまらなかったり、どのように説明したらよいか分からなかったりすることが考えられる。話型指導やICT機器を活用して自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりすることで、学びを深めさせていきたい。

展開	時間	学習活動の流れ・予想される子どもの反応（○）	指導上の留意点と評価（☆） （○ICT ●学びあい ◎両方）
問題の発見	8分	1 前時の復習 ○ 「単位を合わせてから計算しよう。」 2 本時の学習問題を確認する。 ○ 「900gと100gで1kgが量れるよ。」 ○ 「何種類量れるのかな。」 学習問題 はかりと900g、300g、100gのおもりを使って、何gの重さがかかれるか考えよう。	○ 前時の学習を想起し、本時の課題解決につなげる。 ◎ 本時の課題を焦点化するために、問題を視覚化したりペアで確認したりする。
追究	30分	3 自分で考えをまとめる。 ○ 「おもりを二つ使えば、違う重さを量れる。」 ○ 「たくさん量れるね。」 ○ 「800gは量れないのかな。」 ○ 「どうしても200gは無理かな。」 ○ 「計算で求められるよ。」 4 グループで意見を発表する。 ○ 「なるほど。そういう量り方があったね。」 ○ 「左に900gを置いて、右に300gを置くと、600gも量れるよ。」 ○ 「すごい。この方法で他の重さも量れるよ。」 ○ 「全部探してみよう。」 5 全体で共有する。 ○ 「そうか。右と左に置いてもいいんだ。」 ○ 「200gはそうやって量ればいいんだ。」 ○ 「いろんな量り方があっておもしろいね。」	○ 効率よく全体の意見をまとめられるように、授業支援ソフトを活用する。 ● 意見を伝えたいという気持ちを高めるために、自力解決を支援する。 ◎ 解決を悩んでいるグループの意見や課題解決につながる考え等を教師が全体につなげ、「学びあい学習」を活性化させる。 ◎ グループの意見を全体で共有することで、多様な考えを引き出したり、考えを深めさせたりする。
解決	7分	6 本時のまとめを考える。 ゴール 100gから1300gまではかることができる。 7 学習の振り返りをする。	☆ 重さの加法や減法を活用して、重さをつくることができる。（タブレットPC・観察） ◎ タブレットPCで本時の学習を振り返り、次時の指導に生かす。

アクティブ・ラーニング型 授業デザイン

6年	社会科	単元名	長く続いた戦争と人々の暮らし	6/8	壬生川小学校 田中 慎也
----	-----	-----	----------------	-----	-----------------

★ 単元のねらい	
満州事変から日中戦争、第二次世界大戦までの戦争の背景と経過、国民や戦場となった地域の人々の生活の様子から戦争の実態を知り、平和の意義について考える。	
☆ 本時のねらい	
各種資料から戦争中の国民生活について関心をもって読み取ることを通して、人々がどのような思いで生活していたのかについて考えることができる。	
○ 「学びあい学習」におけるICT活用のポイント	
タブレットPCを使って資料を読み取り、自分の考えを書き加えてグループや全体で共有することによって、自分の考えを広げたり理解を深めたりする。	
● 「学びあい学習」のポイント	
資料から読み取った思いや考えを、短い言葉で友達と共有して気付きを広げ、グループで対話を深められるようにする。	
◇ カルテからの目標設定（関連する部分に下線）	
⑬想像力「友だちの意見や集めた情報を組み合わせ、自分の考えをまとめるようにしている。」	
⑭協働力「グループやクラスのいろいろな意見を生かして考えを深めたり、広げたりしている。」	
各種資料や課題を基に、自分の意見や考えを短い言葉で記述できる児童は多い。しかし、友達の見解と比較したり、自分の意見をもう一度見直したりすることは十分ではない。そこで、グループ学習の中で互いに考えを伝え合い、学びを深めさせていきたい。	

展開	時間	学習活動の流れ・予想される児童の反応（○）	指導上の留意点と評価（☆） （○ICT ●学びあい ◎両方）
問題の発見	8分	1 学習問題をつかむ。 ・ 「ちいちゃんのかげおくり」 ・ 「一つの花」 ・ 「特攻隊員（植村真久大尉）の手紙」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習問題 戦争中、人々はどのような思いで生活をしていただろう。 </div>	○ 戦時中の生活や人々の思いに意識を向けさせるために、電子黒板に資料を提示し、問題意識を高めることができるようにする。
追究	30分	2 <u>戦争中、人々がどのような思いで生活していたのかを、資料を活用して読み取る。</u> <小学生> …国民学校の時間割、集団疎開など ○ 寂しいな。家族に会いたい。 <学生（学徒）> …勤労働員、学徒出陣など ○ もっと勉強をしたいな。 <女性（女子生徒）> …勤労働員、軍事教練など ○ 自分も頑張るしかない。 <衣食住> …標語、配給制など ○ 自分だけわがまを言えない。 3 <u>読み取ったことを基にグループでまとめ、全体で共有する。</u> ○ 国民全員が戦時下に置かれ、大変だったことが分かった。 ○ 何としても生きて帰って来てほしい。	○ テーマに関連した資料をタブレットPCで自由に閲覧できるようにする。 ○ 必要な情報を正確に読み取り取れるように写真や動画を提示する。 ● <u>資料を閲覧する際には、読み取った思いを短い言葉で友達と共有し、気付きを広げる。</u> ◎ 人々がどのような思いで生活していたのか、タブレットPCに書き込み、グループの考えを全体で共有する。
解決	7分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ゴール 国民生活のすべてが戦争に注がれ、生活が制限されて、不安な気持ちで過ごしていた。 </div> 4 戦争に行ったお父さん（植村大尉）に返事を書く。	☆ 戦争中の人々の生活について、資料を効果的に活用して調べ、人々がどのような思いで生活していたのかについて理解を深めている。 （オクリンク、発表）